

Title	HPLCによる免疫抑制剤の3次元分析
Sub Title	
Author	西松, 邦子(Nishimatsu, Kuniko) 重水, 喜代美(Shigemizu, Kiyomi) 高井, 信治(Takai, Nobuharu) 永田, 佳子(Nagata, Yoshiko) 菅田, 節朗(Sugata, Setsuro) 松島, 美一(Matsushima, Yoshikazu)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1987
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.32 (1987.) ,p.107- 107
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000032-0108

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

HPLC による免疫抑制剤の 3 次元分析

西松邦子, 重水喜代美, 高井信治*, 永田佳子, 菅田節朗, 松島美一

〔第 2 回エル・エス・ティ学会大会 (1986年11月, 東京) で発表〕

HPLC を免疫抑制剤の治療モニターに使用することを目的として研究した。カラムは MPD-ODS, 多波長検出器, 溶離液としてアセトニトリル-水系を検討した。その結果シクロスポリンは 10分以内に分離分析することが可能であることを確かめた。

* 東京大学生産技術研究所

ガラス ODS カラムによる薬用ニンジン成分の高速液体クロマトグラフィー

金沢秀子, 永田佳子, 松島美一, 友田正司, 高井信治*

〔第 2 回エル・エス・ティ学会大会 (1986年11月, 東京) で発表〕

オクタデシル (octadecyl) 基で修飾した多孔質ガラスを充填剤としたカラム (ガラス ODS カラム) を用いた高速液体クロマトグラフィー (HPLC) による薬用ニンジンの主要成分であるサポニン ginsenoside の分析方法を確定した。

ガラス ODS は既報の方法により作製した。この充填剤の組成 (モル比) はシリカ, 89:ホウ素, 0.6:アルミニウム, 1.5。ガラス孔径, 550 Å, 粒度分布, 8-10 μm, ODS 含量, 12% であった。ガラス ODS はステンレス製カラム (サイズ, 4 mm ID×150 mm) に充填し, 室温で使用した。HPLC は東洋曹達製ポンプ CCPM を用い, UV 検出器 (東洋曹達 UV-8000) により 203 nm 吸収で検出した。データ処理は日立 833 A 装置を用いて行った。

溶離液にアセトニトリル-水を用いた。ginsenoside 類の保持時間は溶離液の組成の僅かな変化で比較的大きく変動した。ginsenoside Rb₁, Rb₂, Rc, Rd, Rf, Rg₂ は溶離液, アセトニトリル-水 (27.5:72.5), 流速 1 ml/min でよく分離されたクロマトグラムが得られた。ginsenoside Re, Rg₁, Ro は溶離液, アセトニトリル-水 (16.5:83.5), 流速 1 ml/min で分離された。局方ニンジン末抽出試料も同じ条件で全 ginsenoside が分離され, 分析に要した時間は 12 min であった。

試料の各ピークを分取し, 単一ピークであることを確認した後, TLC で標準品と比較, 同定した。

* 東京大学生産技術研究所